

Neues in Nara

Nr. 3 1.

2010年6月14日



Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara

奈良日独協会（会長 河野良文）

奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

事務局：加納雅之（Tel/Fax 0742-22-3636）

“これは会員相互のコミュニケーションツールです。皆様からの情報は事務局へ”

7 - 8 月行事予定

1. 日独協会連合会「日独交流150周年」 企画実行委員会

日時：7月5日13:30～

場所：東京日独協会会議室

2. ランゲンドルフマンドリンオーケストラ 一行への観光案内

期日：7月28日（水）、29日（木）

帝塚山学園よりのボランティア通訳依頼を受けて、7名の会員から協力の申し出を頂きました。有難うございました。

3. ピア・アベント

日時：8月7日（土）17:30～

場所：大安寺境内

参加費：3,000円（学生1,500円）

特別ゲスト；フォーク歌手高石ともや氏（予定）
案内チラシは後日送付します。

会員だより

今春、奈良女子大を退任され神奈川大学准教授に就任されたステファン・ブッヘンベルグさんよりメッセージを頂きました（翻訳：上野弥生さん）＝同封添付

同氏は平成15年から当協会の様々な行事企画へのアドバイスや料理教室の講師、そして何よりも身近な頼りになるドイツ人として当協会に多大な貢献をいただきました。



5 - 6 月行事報告

1. 奈良日独協会・平成22年度年次総会

（5月15日（土）和ダイニング「花小路」

25名出席＝右上写真、委任状59名）

平成21年度の事業・会計報告書・平成22年度事業計画および議事録を同封します。

訃報

「日独交流150周年」企画実行委員会事務局長の藤本修氏は、5月19日日独協会総会出席の為滞在されていたドイツ ロストックで逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



2. 駐日ドイツ大使講演会

（5月24日16:30～、奈良女子大記念館、130名出席、奈良女子大との共催行事）

駐日ドイツ大使 Dr.V.Stanzel 氏夫妻、ドイツ総領事館より総領事 Dr.A.Olbrich 夫妻、赤松恒樹氏が来奈され、大安寺訪問、当協会理事との昼食会、奈良県知事表敬訪問、平城宮跡見学の後、奈良女子大で大使（＝左上写真）による講演会を開催。予定時間を超える質疑応答があり、大変熱気のある講演会となった。出席者より次の感想が寄せられた。

“フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使の講演「ドイツと日本 - 明日の我々をつなぐもの - 」を聞いた。深い学識に裏打ちされた大使の話は示唆に富み両国間の相互理解の必要性を説く意義深いものであった。

間もなく150周年になる日独友好の歴史をたどれば、国と国の関係というより、人と人、とりわけ知識人同士の交流が大きな役割を果たしている。相互理解を深めるには文化、学術上の更なる交流が欠かせない。大使は過去の歴史を振り返り、今後の日独関係のあり方に触れながら、市民、特に若い世代の学术交流プロジェクトへの積極的な参画に期待を寄せられた。

講演後の質疑応答では、「環境先進国ドイツから見る日本はどうか？」との問いに「日独の違いは、国民が目先の利益を重視するか、遠い将来のことを考えるかにある。」と応じられた。言葉にこそ出されなかったが、日本とは比較にならないドイツの温暖化対策や脱原発政策の意義をそれとなく言い現わされたのだと私は解釈した。一方、「最近の日本で特に印象深いものは？」との質問に対しては、「世界に先んじる日本のアヴァンギャルド（前衛芸術）」と答えられた。恥ずかしいことに私の知らない日本の一面だった。（会員の藤澤一夫さん寄稿）

